

山桜の里 戸赤



7月19日試食会



戸赤の名水もやまざくらレストランでデビューさせたい



夏に咲く



星光美さんの花豆畑



調理、接客、下膳、片付け、掃除と一手で挑戦



初回は7月22-23日

「土日だけでも開店してみたい。長く続けないと客は来ないかもしれないが、地元の素材で軽食喫茶を」と、現役退職した小椋由典さんはやまざくらレストランを始めました。初回には戸赤の人と知り合いが来てくれました。インターネットでも情報を発信しています。戸赤の新しい魅力の一つに定着させるよう、知りに合いに足を運んでもらいます。

「やまざくらレストラン」

【木地の学習No.75】…湯原村稲子については、横川の二瓶家文書では天正二年湯原村稲子御林馬立沢上屋敷へ会津や米沢山から渡ってきたとしている。丁度時を同じくして、検原で木地引きをしていた会津率人新国掃部が、伊達政宗に召抱えられ湯原へやって来たのは天正十四(1586)年で、隠居した年齢から逆算すると一八歳の時になる。その後愛子(あやし)を経て大倉村滝ノ上へ移り現在に至っている。代々仙台藩の御用木地を勤めた家で、「安永三年、風土記御用書出、組技御木地挽、新国卯左エ門」に各代の事績が記載されている。稲子木地もそうであるが、来ては去り去っては来るという常に離合集散をくり返す木地師特有の宿命を背負っていた。従って一概には木地小屋村の発生年代を断定できないことが多い。文化期になると仙台領でも国産の塗物に力を入れはじめ、木地師・塗師を他国から寄せ集めることになる。…稲子には、米沢、会津、長野、静岡、岐阜の木地師が、塗師は米沢、会津から集められた。この時期は鬼首(鳴子町)で、大場東(藤)右衛門が椀座を開設した時であり、やはり信州より木地師を呼び込んでいる。山形県では近世初期、東置賜郡で隆盛であった木地業が衰え、その後西置賜地方で盛んになってくる。飯豊町の巖谷・広川原・小屋・清明・白川等、小国町の五味沢・玉川・明沢・高畑・赤沢等があげられる。この地域の木地業は吾妻山麓や会津から移ってきた者、後年信州方面から来た者、農民による農閑期の副業としての木地師とで成り立っていた。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (続く)

集落からよく見える向かい山のすそ
野に10本、いつ咲くか楽しみ

背丈より大きい苗木

今回植えた桜の木

植えた桜から集落を望む

やまざくらを増やそうと町の配慮を
得て苗木を無償入手

桜植栽と

ザラ板も念入りに

雑草の侵入が進む校庭

集会所掃除 6/11

玄関の戸丸洗い

敷居はカメムシの絶好の隠れ家

石に気遣い
草刈り

換気扇の中までくまなく掃除

洗剤で網戸を

みんなの花植え

6・23 長寿会で奉仕作業
(一本木向)

5月4日戸赤で珍しい雲を見たという話題が新聞記事となりその切り抜きが渡部利さんに届きました。この日同じ雲を見て撮影していた渡部由さんは「環水立アーク」かも、と言っています。

れきのひとコマ

左岸の石積みほぼ完成、橋前後の取り付け工事が進む。集会所入口の水路の取り付けに関係し集会所排水管の布設替えが行われている

(ストーリー性のある村づくりのために[No.43] 会津大塚山古墳の発掘 会津若松市一箕町大字八幡に一箕古墳群に属し、四世紀後半の造営とされる会津大塚山古墳がある。全長約一一四mの前方後円墳で、発掘調査により中国の神仙思想に基づく3人の神様と二体の靈獣の姿が描かれている三角縁神獸鏡(さんかくふちしんじゅうきょう)、環の中に三枚の文様を作り出した三葉環頭大刀、矢を入れる鞆(ゆき)などのほか多くの副葬品が出土した。三角縁神獸鏡 この鏡は岡山県備前町丸山古墳出土の三角縁神獸鏡と同じ鑄型で作られた同範鏡(どうはんきょう)で、製作地は畿内と考えられている。鏡は会津を治めていた人物がヤマト王権から分与されたものであろう。このことからわかるように、会津は早くから中央政権と密接な政治的関係を持ち、その権力圏下に置かれていたとみられる。陸奥国会津郡長江郷 律令体制の完成 大宝律令 大宝元年(701)、文武天皇による大宝律令の制定で律令体制は完成した。律は刑法、令は行政法・民法・訴訟法などの法律で、これらの諸法律によって中央集権的な国家運営がなされた。全国を畿内と七道に分け、さらにこれを国・郡・里に分ける地方行政区画が定められた。国には国司、郡には軍司、五〇戸からなる里には里長が置かれた。国司は中央で任命された官人が赴任し、軍司・里長はその地方の豪族や有力農民が任命された。(「下郷町史-第7巻通史編(発行・下郷町)」より出典) (続く)